

北原眞智子さん



私達にとつては良い時代でした
スーパードに行けば何でもあり
良い時代に生れてよかったねと年代同志でささやき合
った
私の終戦を知ったのは女学校3年の時だった 海軍の服を作っている最中に其の場で大妻女専の先輩から当時海軍衣糧廠が疎開しており 大妻

戦争を始めてはいけない



女学校の友人たちと。右前が北原さん 1946(昭和21)年

専もいまして教室は其の人等の宿舎や大形ミシンの作業場に使用されて勉強等はそつちのけ! 私達は軍属と証されその命により日々をすごしていた
終戦だつて 降伏だつて聞いた途端に体の中で何かが

伝えたい

戦後80年 過去から未来
伝えたい記憶と言葉

北原眞智子さん

95

伊那市高遠町

ガラガラとくずれおちた
「ほしがりません勝つまでは」とあんなに覺張つて来たのに 悲しく悔しかった 神風も吹かなかつたんだ 勝進んでもいなかつたんだ
国民学校での戦況の話では 神風が吹き勝進んでいるとのこと 私もそれを信じて居た 信じ切っていた
どうゆう事なんだ 誰かに聞いて見たかつた 親はもういない 今なら少しは親孝行出来るのに と舌語が浮んだ
「親への恩は子に返せ」と 学徒動員 特攻隊 義勇軍と若い人等の姿が内地から減つて行つた 無理に出征させられニユウギリヤで悲惨に死
んで行つたお父さん達 主食がコーリャンで日々我慢していた人達 私も土曜日を待つて寄宿舎の玄関に出しておいたリックを背負い 5、6里もある道を歩いて家に帰つた 真赤いコーリャンのご飯を兎がよろこんで食べた
広島長崎の原爆そして終戦とは 此れが戦争とゆうものか 2度とこの思いはいやだ 戦争はいやだ ムゴイムゴイすべてムゴイ この世から戦争のない事をのぞむ 後世に望むことは 戦争を始めてはいけない これを強くのぞむ
※原文を尊重して掲載しました。